

裁判員経験者の意見交換会議事録

司会者：今回参加していただいた方には、いずれも非常に長期の裁判員裁判に参加していただきました。

最初に、今振り返ってみた感想や印象をお話しいただくところから始めたいと思います。

裁判員経験者 1：私は、全く経験したことがないことが進んでいく中での戸惑いはありましたが、期間の長さは全く気にならなかったですね。常に、裁判員としての仕事、職務をやるということだけを考えていました。

司会者：戸惑いというのは、どのような感じのものでしたか。

裁判員経験者 1：実際の裁判を誰一人として経験していませんから、どう進んでいくのかとか。それに、実際に自分の意見を求められますので、今まで自分が持っていた犯罪というものに対する考え方が普通なのかとか、そういう戸惑いは少しありました。

裁判員経験者 3：私も、長さに関しては、今思えば、そんなに苦にはならなかったと思っています。

裁判は初めてでしたので、初めの1週間か2週間ぐらいは訳が分からない状態で、整理するのに必死でしたね。それ以降は、皆さんと裁判の中身を共有できたので、だんだん分かりやすくなっていったという感じです。個人的には、非常に良かったと思っています。

司会者：最初は、情報量が多くてなかなか追いつけなかったのですか。

裁判員経験者 3：そうですね。登場人物の関係といった細かなところまでは全然分かっていなかったもので、それを整理するのに時間がかかったかなという感じですよ。

裁判員経験者 7：個人的には、長い裁判に参加させていただいて、非常にありがたかったなと思っています。

普通の裁判員裁判は、1週間とか、長くても2週間で終わりますよね。です

が、私が参加させていただいたのは約4カ月で、裁判所に登庁したのは35日ぐらいだったと思うのですが、期間の長い事件を担当させていただいたことによって、審理や評議の中身を十分に理解することができたと思います。

多分、期間が短ければ、おろおろしている間に1週間が終わっちゃって、後から振り返るぐらいで、中身があまり残らなかったんじゃないかという気がします。

私は、仕事が休めなかったので、仕事の合間に裁判員裁判に参加させていただいていたのですが、会社にも家族にも協力してもらえたので、遅刻することなく参加することができました。忙しくてストレスを感じることはなかったです。

非常に良い経験ができ、自分の中では励みにもなっています。終わった後に振り返ってみると、大変な事件だったなと思うようになりましたが、別に、裁判員裁判に参加したからといってひどいストレスを感じたということはありません。

司会者：むしろ時間をかけてやったので理解も深まって、良い評議もできたというお話ですね。

会社でもバックアップしてもらえたという話でしたが、終わった後、会社ではどうだったのでしょうか。

裁判員経験者7：大丈夫でした。

裁判員経験者2：私自身も期間の長さは余り感じませんでした。逆に、ほかの事件は、一人の運命を決める裁判なのにそんなに早く終わっちゃうのと思ってしまいます。

それから、私ごとなんですが、選任手続の直前に母が亡くなって、父の介護をしつつ裁判所に通っていたのですが、逆にそれが気分転換になったというか、母が亡くなったばかりの悲しみとか暗い気持ちを紛らわせることができたと思います。

私は主婦で、仕事に行っているわけでもないし、友達と話していても大体考

え方が似通っていますので、普段は、深いことを考えて自分の気持ちを発言したり、ほかの人の意見に対して反論をすることはほとんどありません。

それが、今回、いきなり裁判が始まって評議をしましょうということになったので、慣れるまではなかなか発言がしにくかったです。ですが、裁判官やほかの裁判員がいろいろと助けてくださったので、評議もとてもスムーズで、良かったなと思います。

私にとって、あの期間はすごく重要だったというか、自分のためにもなったと思っています。考え方も少し変わりましたし、自分の考えに固執せず、ほかの人の意見も取り入れるということを学びました。これからは、自分の人生にそれを活かしていきたいなと思います。

裁判員経験者 5：私は、実際に終わってみれば、裁判員の期間はそう長くなかったなと思います。

選任手続で選ばれたときは、期間がすごく長いなというのと、知らない罪名もあって、法律も全然知らないのに人を裁けるかなと思いました。ですが、実際に裁判所に来てみると、裁判官がフォローしてくださったので、罪名についても、これがこうだからと大分理解できました。

あとは、評議のときに、人それぞれ意見が違うので、自分が言った意見に対してほかの裁判員の反論があったり、ほかの裁判員が言った意見に対して自分はこう思っているがなぜ違うのかと思ったりして、裁判や法律についていろいろと勉強もできました。

また、私は、自営業をしているのですが、仕事においても、人に対する考え方が変わりました。

だから、裁判員裁判に参加してすごく良い経験をさせてもらいました。裁判が終わった後、ずっと裁判所に来ていたのが急に来なくなり、そのギャップが激し過ぎて、何か腑抜けみたいになった感じがしました。

だから、もし次また裁判員に選ばれたら、もう一回務めたいなという気持ちです。

裁判員経験者 6：週 3 日というスケジュールでいろんな物事が進んでいって、どんどん新しいものが出てくるということで、頭の整理も含めてついていくのに必死で、大変だったかなという感じもします。足かけ 6 カ月で、長いと言われたら長かったという感じです。

一番最初に、裁判官から、被告人の立場に立って物事を見てくださいなという話を聞いたと私は記憶しています。だから、ほかの裁判員も、被告人の立場に立って物事を見ていこうとされていたと思います。私も、被告人の立場で、被告人の内心を読み込んでいき、法廷でどういうふうに物事を見ていくべきかなというのをいろいろと考えさせていただきました。

今回の裁判員と補充裁判員は、年齢層がばらけていましたから、1 つの物事を見たとしても見方が違いましたが、最終的には、どういう形で判決を出していこうかということをもみんなで話し合っ、1 つの結論を出しました。

ただ、法廷で話を聞いているだけでは物事が分からないので、メモをとっていました。最初は漢字を使って一生懸命書いていたけれども、そのうち漢字も書けなくなり、平仮名で書いていきました。何で自分がそのように結論づけたのかについて、被告人がこういう証言をしたからだということを話すために、メモを取りました。それで非常に肩が凝りました。学生時代から社会生活を含めて、これだけ筆記したのは初めてだったなという感想です。

ただ、何でそのように判断をするのかということを書いて残して、マーキングしていったのは、物事を整理するに当たってはよかったなと思っています。

また、違う視点でいろんな物事を見させていただいたのは、ありがたかったと思います。裁判員の中でもいろんな考え方があり、それぞれがお互いに意見交換をした上で結論を出せたと思います。

そのような経験をしたことが残された人生にどれだけ活かせるかは分かりませんが、自分なりに、良い経験をさせていただいたと思っております。

司会者：では、皆さんのお話を前提に、長期裁判の負担やストレスについての話に移していきたいと思ひます。

まず、日程のお話がありました。毎週、基本的には水曜日、木曜日、金曜日で行われたと思いますので、お仕事を持たれている方にも週3日は裁判所に来ていただくことになっていました。

それから、いろんな事件が含まれておりましたので、聞きなれない罪名が出てくると、一体どんな罪なのかなど、理解しにくかったものもあったかと思えます。

また、登場人物が多いと、まずそこを頭に入れることも難しかったんだろうと思います。

そして、登場人物や事件の概要が頭に入っても、判断をするための材料となる証人の数も多かったので、誰がどの話をしたのかを整理するのも難しかったということで、日程、事件の内容、審理の内容など、負担が大きかったのではないかと思います。

それらをどのようにして乗り越えていかれたのか、どのあたりが最後まできつかったのかについて、お話をいただけますか。

裁判員経験者 1：メモをとるのが本当に大変でした。メモをとることに集中してしまう傾向があって、証人にしても被告人にしても、表情なんかを見ている余裕はなかったです。私たちは、その人がどのようなことを言ったのかによって判断しないといけないので、書くことだけに集中していました。

裁判員経験者 3：私は、ほとんどメモをとらなかったです。公判が始まる前に、裁判官から、録画されているのでもし証言を確認したければそれが使えると説明され、被告人や証人の表情を見てくれと言われていたので、ずっと表情を見ていました。評議では、ちょろちょろと箇条書きをしたメモで話を進めていったという感じで、メモをとるという負担はありませんでした。

基本的には、裁判中の負担はありませんでした。ただ、初めは、裁判は怖いというイメージが少しあったので、やばそうな傍聴人を見つけて、その人と帰りの電車が一緒になったときに、降りる駅を1駅ずらすという細工をやったというぐらいのストレスはありました。

司会者：傍聴人がいつも多く、みなさん真剣に傍聴されていたので、そういう怖い表情に見えたのかもしれませんがね。どうもありがとうございます。

裁判員経験者 2：私は、被告人や証人の表情も見たかったので、省いてもいいところは省いたのですが、被告人がかなり細かい点まで覚えていて、発言することが全て重要だったので、途中で腱鞘炎になるぐらいに、一語一句メモを取りました。ですので、綴じるファイルが1冊では足りず、2冊、3冊になっていて、それを見ながらでないと言議ができないぐらいの情報量でした。

ただ、聞き逃したら誰かがメモを取ってくれているだろうなとも思っていました。

自分が聞きたいことを法廷で聞きながら、メモも取りながら、自分の疑問点にチェックを入れたりしていたので、それこそ大学の講義どころの騒ぎじゃないよというぐらい真剣に、法廷でメモを取っていました。

ほかの裁判員も多分そうだったと思うんですが、ものすごい量の資料になりましたので、弁護人や検察官の提出書面と自分のメモとをファイルで分けたりしました。

裁判員経験者 6：我々は、涙ぐむといった表情も、メモの中に書いていました。

裁判員も質問してくださいと言われたときは、何か質問しなければいけないと思い、質問することをメモに書いて、このような質問をしてもおかしくないでしょうかと裁判官に確認していました。

裁判員は、それぞれメモのとり方もまとめ方も違っていました。みなさん、自分なりにメモを取られていたかと思います。

司会者：手や肩が疲れたという話がありましたが、それを乗り切る工夫はされたんでしょうか。

裁判員経験者 2：貼り薬や塗り薬、あとは痛み止めですかね。

なるべく力を込めずに書いたら楽なのかなとは思っていますが、話す速度がすごく早いので、それを聞きながら書くと、どうしても力が入ってしまいます。それこそ、漢字を書こうとすると次の話に移るので、漢字なんて悠長に書いて

いる場合ではなくて、片仮名と平仮名を織りまぜながらのメモでした。後で読んだら、何だろうこれはという感じになっていました。

裁判員経験者 1：私も同感ですね。漢字を思い出しているうちに次の話が出てくるので、平仮名を書き並べることになっていました。最終的に見直すと、これはどういう内容だったのかというメモがしばしばありました。

私たちの場合は、証言を録画から確認しようとしても、その場面がうまく取り出せなかったもので、皆さんがとっていたメモから判断することのほうが多かったです。

司会者：検察官や弁護人が質問するスピードや、被告人や証人が答えるスピードは、皆さんにとっては早かったということでしょうか。

裁判員経験者 2：速さもありますが、起立した状態で下を向いて資料を読みながら質問をされると聞こえなかったり、語尾が消えていって、メモをしている途中で何だろうとなったりしました。

また、普通に質問しているときはいいのですが、ヒートアップしてくると、早口になったりされていました。

司会者：検察官や弁護人は、皆さんのほうを向いて、皆さんの反応を見ながら質問をするという感じではなかったんですかね。

裁判員経験者 2：弁護人は、質問をされる前にこちらに向かれて、こういうこともありましたがという感じで話を振られてから、自分の聞きたいことを聞かれていたことが多かったです。

検察官は、数人は、こちらを見ながら話をされていましたが、全くこちらを向けずに資料を読んだり、被告人に向かって質問をするという感じの方もいらっしゃいました。

司会者：日程について、水曜日、木曜日、金曜日の週3日というのが適当だったのでしょうか。例えば、週2日にすると全体の期間がもっと長くなり、週4日にすると全体の期間がもっと短くはなります。

週のうち何日裁判所に来ていただくのが適当かという点や曜日の組み方につ

いて、どのようにお感じになったのでしょうか。

裁判員経験者 1：私に関しては、全然問題はありませんでした。土曜日、日曜日は官庁がお休みされますし、月曜日は週の初めになりますので、自分のモチベーションを上げることに大変苦勞すると思います。だから、週の初めから1日ないし2日をあけて、そこから裁判に向かうというのは良かったと思います。

私の場合は、火曜日に仕事をしてから裁判所へ来ていたのですが、そこでのスイッチの切りかえがうまくできたので、裁判への集中力は高められました。

裁判員経験者 3：私も、水曜日、木曜日、金曜日は、タイミングとしては一番良かったと思います。週4日にされるとちょっと調整が難しくなりますし、週2日にすると全体の期間が長いよねということになります。期間が長くなるのはまだ大丈夫なのかなと思いますが、週4日はちょっと厳しいかなという感じがします。

私の場合は、月曜日、火曜日に会議や打合せを集中させてもらってほかの曜日はなしというように、会社に協力してもらったので、うまくいったと思っています。

あとは、気持ちの切りかえですね。なかなか気持ちの切りかえができず、会社にも、裁判所に行っているようなイメージのほうが濃かったかなという感じはします。

仕事が2日間に集中するので、会社のほうも厳しかったのは厳しかったのですが、そんなに苦にはならなかったという感じがしています。

司会者：そのあたりは、どのような工夫をされて乗り切られたのでしょうか。

裁判員経験者 3：乗り切るというのは、何か負担になっていることが前提だと思うのですが、私は、そんなに負担だとは思っていませんでしたし、会社では、皆が裁判のことにあまり触れずにいてくれたので、乗り切ったというイメージはないです。

家族も裁判について聞いてくることがなかったので、非常に楽だったと思っ

ています。

司会者：周りの理解があったのですね。

裁判員経験者 3：あったと思います。

裁判員経験者 5：私は、二つの仕事を自営していて、昼夜を問わず仕事がある日がありますが、裁判の日程がきちんと決められていたので、今日は何時に終わるから夜の仕事は何時から行けるという感じで、段取りが組めました。

週明けは、仕事のスケジュールが分からない場合があり、急に裁判所に来られなくなる可能性もありましたので、もし月曜日から裁判が始まっていたとしたら、困っていたかもしれません。ですが、週の中から日程を組んでいただいたので、スケジュールが組めて、仕事への影響は出ませんでした。

裁判が終わってから仕事に行って、朝からまた裁判所に来なければならない日もありましたが、それは全然苦になりませんでした。ちょっと昼寝したりしながらでも差し支えは全然ありませんでした。

これから裁判員を経験される方も、大丈夫じゃないかと思います。

司会者：裁判所から帰られる時間は、何時ころだったのでしょうか。

裁判員経験者 5：午後4時30分までには終わっていましたが、時々、午後5時ぐらいになるときもありました。ですが、午後5時までに出られれば、夜の仕事にも差し支えませんでした。タイムスケジュールを組んで、はっきりと時間を示してもらえたから、差し支えがなかったと思います。

司会者：今回担当された事件は、どれも決して軽いものではなかったのですが、そういう部分で負担を感じられたことはありますか。

裁判員経験者 2：私は、裁判所を出たら裁判のことを忘れて普段の自分に戻っていたはずなので、気持ちの切りかえは結構できていたと思っていました。ただ、裁判が始まって1週間か10日ぐらい経ったころに、裁判の夢を見ました。

気持ちの切りかえができて、全然負担になっていないつもりだったのですが、普段とは全然違う環境で、テレビのニュースで見るのではなく、細かい点

まで法廷で話を聞きましたので、分からないところでストレスはあったのかなと思います。

それをほかの裁判員に話したら、自分も同じだと言われた方がいて、やっぱり皆さんそうなんだと思いました。

余談なんですけど、裁判が終わってから1カ月後ぐらいにも、裁判所の夢を見ました。

司会者：結構きつかったという感じだったのでしょうか。

裁判員経験者2：私は、結婚するまで医療関係の仕事をしていて、遺体の写真も見ていたので、そういうのは結構平気で割り切れるものだと思っていました。

けれども、いざ自分が裁判に関わり、自分自身が人を裁く側になったときには、やっぱり精神的に、深いところで影響があったのかなとは思っています。

裁判員経験者6：被告人の内心をどのように読み込み、自分として被告人に対してどのような結論を出すかということを真剣に考えていかななくてはいけないので、家に帰って裁判のことを忘れていたつもりでも、どこか頭の片隅に残ってストレスになっていたのは間違いないのかなと思います。それが、夢を見るとか、眠りが浅いというふうに出るのかもしれませんが。私の場合は、肩が凝ったり、血圧も少し上がったりしました。

会社や組織の場合は、組織全体で考えていくという一つのストーリーがありますが、裁判員裁判の場合は、裁判員として、一つの結論を自分できっちりと出さなければならず、そのためには、いろいろな証言を自分の中でどのようにそしゃくするかということを考えなければいけないので、人によって違うでしょうが、かなりストレスがかかっていたのではないかと考えています。

司会者：そういうストレスを感じながら、長い期間、裁判をしたにもかかわらず、振り返って考えると、自分にとっては良い経験だったというお話をされました。どのようにストレスと向き合って乗り越えていったのか、何が助けになったのかという点で、何かありますか。

裁判員経験者1：私は、全然苦になりませんでした。本当に、裁判所のことは裁

判所の中で終わっていたんです。裁判所で審理に参加していることに関しては、裁判所から一步出たら完全に忘れていました。

やっぱり自分の仕事が一番大事ですので、次の日に仕事をするときは、仕事に集中しました。仕事の中に裁判のことが思い浮かんだことはなかったです。だから、本当にオンとオフの切りかえがうまくできたと思っています。夢も見ませんでした。

司会者：そのあたりは、1番さんの気持ちの切りかえがうまくいったからなのでしょうか。

裁判員経験者1：私自身も分かりません。仕事の中に裁判の話をしてくる方もいらっしやいましたが、ああそうだよと軽くあしらっていたので、うまくやれていたと思います。

裁判員経験者6：私は、被告人が犯罪に至った経緯をかなり読み込んだ上で結論づけていかなければいけないという思いがかなり強かったのかなと感じがします。

裁判員経験者7：私も1番さんと同じで、すぐに切りかえができるほうなので、ストレスはそれほど溜まらず、夢も見ませんでしたし。仕事場でも、そんなに話をしないほうなので大丈夫でした。事件の中身については、悲惨だなといっぱい感じましたが、後を引くようなことはありませんでした。

司会者：裁判員裁判は、どれも重い事件ですし、場合によっては凄惨な場面が出てくることもあるので、参加すること自体から相当なストレスがかかるんじゃないかということも言われています。さらに、多くの事件を担当された皆様の場合は、より負荷がかかりやすかったのではないかと思います。今お話をされたように、それほどでもなかったというのは、どのような理由からでしょうか。

裁判員経験者7：朝に仕事をしてから裁判所に来たり、いろいろなことをしていたので、考える余裕がなかったということもあると思います。性格的なものかもしれません。

司会者：ほかの裁判員とお話をされたり，雑談をされたことはなかったのでしょうか。

裁判員経験者 7：電車での行き帰りが一緒の人が何人かいて，皆，結構仲がよかったので，話をしたり，聞いてもらったこともあったかなと思います。

司会者：審理について，こういうところを理解するのが大変だったとか，こういうことをもっと早く教えてほしかったとか，こういうところが最後までだめだったとか，あるいは逆に，途中でこういうことがあったから良かったといった点はありませんでしたか。

裁判員経験者 2：人物相関図を写真入りで用意してファイルに綴じていただいていたので，初めのうちは，名前が出てくるたびに見ていました。あれがないと，誰が誰なのかや，どういう関係でどこどう絡んでいるのかが全然分からなかったもので，一目瞭然ですごく助かりました。ほかの皆さんも，多分そうだと思います。

裁判員経験者 1：人物相関図は，人物の関わり合いが一目で分かるようになっていましたので，本当に楽でした。

裁判員経験者 6：私の場合は，複数の事件があったのですが，時系列ではなく，極端に言うと，真ん中の事件が一番最初に審理されました。審理をしやすいからということでその事件を最初に持ってこられたのかとは思いますが，時系列で進んでいないので，最初のころは，この事件がいつどうなって発生したのかというのがなかなか整理しにくかったです。

司会者：そのことを裁判官に質問されましたか。

裁判員経験者 6：いいえ。いただいた図面でだんだん分かってきましたので，それで整理は十分できたかなと思っています。

司会者：検察官や弁護士から出された資料は，どういう印象だったのでしょうか。

裁判員経験者 2：分かりやすいものと分かりにくいものとがとても顕著で，何が言いたいか分からない資料もありました。

裁判員経験者 6：資料をたくさん作っておられるんですが、ボンボンボンと物事を並べておられるだけの資料もありました。

裁判員経験者 2：この資料で何を言いたいのですかと聞きたくなるような資料が結構ありました。

司会者：簡潔さに欠けるところがあったのですね。

裁判員経験者 2：そうですね。どちら側かは言いませんが、一方は、すごく簡潔に論理立てて、これはこうなってこうだから自分たちはこういう主張をしますと書いてあったんですが、もう一方は、いくら熟読しても、ここから何を導き出そうとしているのですかと聞きたくなるような資料がありました。

裁判員経験者 6：一応は起承転結でまとめておられるのですが、それが明白になっていない資料もありました。

裁判員経験者 2：資料というのは、一つの答えを導き出すためにあるものだと思うのです。なのに、そうではなくて、言葉で説明することを単に図にしましたという感じになっていて、資料の役割を果たしていませんでした。これをもとに評議をしましょうと言われても、何を評議していいのか分からなかったり、論点がずれていたりしました。

裁判員経験者 3：私は、資料は、そんなに理解しにくいというイメージは持っていなかったです。

裁判員経験者 7：私が担当した裁判員裁判では、検察官側と弁護人側の資料が対比できるようになっていましたので、それを参考にさせていただいて評議をしました。

ただ、弁護人側が、その資料で何を言いたかったのだろう、何を立証したかったのだろうということが話題になったことはあります。

司会者：一応、かみ合っているところはそれなりにかみ合っていたという感想ですか。

裁判員経験者 7：そうです。

裁判員経験者 2：評議中も、検察官と弁護人から出された資料を参考にしながら

話を進めました。

司会者：評議について、良かった点、悪かった点、きつかった点など、どんな感想や印象をお持ちでしょうか。

裁判員経験者 3：評議では、付箋が使われて、記憶していることを何でも書いてペタペタと貼っていきました。誰が何を書いたかが分からない状態で、いろいろな意見が白板に貼られ、それをまとめていくという形で進められました。個人的には、負担が非常に少なかったという感じです。

私がお話を言ったからどうのこうのということがなく、ブワッと付箋を貼るだけなので、誰が貼ったのかが分からずに評議できたのが非常に良かったと思っています。

このやり方は、私の会社でも使わせてもらっています。

司会者：審理の途中では何があったかを振り返るだけで、中身の話は最後までしないというやり方と、審理の途中で中身についても結論を出していくというやり方のどちらが良かったかについて、御意見を聞かせてください。

裁判員経験者 2：私たちは、中間評議のときに、1つずつ自分たちの結論を出していきました。そして、最後にそれをまとめて、罪の重さはどうかを考えるという進め方をしました。

初めのころは、分からないことが多く、時間がすごくかかりましたが、そのうちに慣れて、すごくやりやすかったと思います。

あと、私たちは、付箋ではなく、1つのことに関して順番に自分の意見を必ず言っていくという方法で進めました。ほかの人と同じであったとしても、人によって言葉が違うので、自分なりに話を聞いて、時にはなぜそう思うかを質問しながら進めました。そうすると、その理由をきちんと聞いたので、そういう考え方もあるのねというのが分かって、すごく良かったと思います。

フリートークが苦手だと、1番さんから順番にどうぞと番号で振ってもらい形になってしまいがちですが、そうすると、1番さんや2番さんは、考える時間が短いので大変です。かと思えば、一番最後に回ってくる補充裁判員さんに

なると、もう言うことがなくなってしまいます。ですので、私たちは、途中で意見を言った人が次に誰かを指名することにしました。そうすると、考える準備もできないので、結構自分の素の意見が出たりして、とても良かったと思います。

言いつ放しではなく、その意見が分からなければその方に聞けるというのが、私はすごく良かったと思います。

司会者：お互いに知らない者同士なので、最初はなかなか意見を言いにくいと思うのですが、期間の長い裁判だと、何となくお互いの連帯意識が醸成されていくので、時間が経つにつれて評議が非常に深まっていくという感じがあったのでしょうか。

裁判員経験者 2：はい。なぜその人がそう考えるのか疑問に感じて質問された方がいたのですが、なぜそう考えたかという理由を聞いて、分かりましたと言われていました。それぞれに考え方とか、育ってきた環境が違っていると、1つの物事でも見方が全然変わってくるので、評議ではそういう理由も聞けて良かったと思います。

裁判の期間が1週間や2週間だと、そういう話にもならなかったと思うのですが、長い期間ずっと顔を合わせていて、趣味の話などの雑談もしていたので、話もしやすくなりましたし、反論もしやすくなりました。日本人は、人の意見に対して、「いや」となかなか言えないじゃないですか。ですので、長期間一緒にいたというのが、評議にとってはとても良かったのかなと思います。

司会者：評議のやり方について、もう少しこういうところがあれば良かったなということでも結構ですし、例えば、こういう資料があったら良かったのにか、逆にあれがあったから良かったというものは、何かありましたか。

裁判員経験者 2：最初に、問われている罪の説明とか、途中で出てくる難しい言葉をまとめた法律用語の解説メモのようなものをいただいて、分からなかったらそれを見てくださいと言われてました。それが良かったと思います。

それと、裁判中にメモを取るのですが、どうしても書き漏れや聞き漏れがあ

って、困ったなと思っているときに、裁判官が、1週間分の総まとめのメモを作られました。週の初めの朝に、記憶喚起のためにそれが配られたので、法廷の前に読んで、こういうことがありましたねと確認をしました。そのメモは、評議のときにも役に立ちました。

司会者： 評議は疲れませんでしたか。

裁判員経験者 6： 評議は、最初は匿名で進めていたのですが、最後のほうは、誰が何を話されているかがある程度明らかになっていました。

最初は、評議と言われても何をどうするのが掴みづらかったのですが、一旦6まで進んで2か3戻ってまた進むという感じで進んでいきました。振り返りという意味で少し戻るといのは、それはそれで良かったなと感じました。

司会者： 参加される前は、人を裁くということについて、本当に評議でやっていいのかという気持ちがあったという話もお聞きするのですが、実際に審理を進めて、評議になったころには、証拠からどういう判断をするかという冷静な思考がある程度できるようになっていったということでしょうか。

裁判員経験者 6： 最初のころは、裁判員によって見方に差があったのですが、ある程度時間をかけて評議をすることによって、最終的にどういう方向性でまとめるのがいいのかということについて、それぞれの物の見方や立場の違いも含めて、メンバーの中である程度の共通認識ができ、最終的な結論を出せたと思っています。

司会者： 逆に、きつかったことがあれば紹介していただけますか。

裁判員経験者 6： 法廷では被告人や証人の表情を見て、一生懸命に聞いてメモを取っているだけでいいけど、評議では話さなければいけないし、時間も長いので、評議のほうにしんどいなという意見もありました。

裁判員経験者 5： 私の参加した事件では、何週間もずっと評議をしたので、ほかの裁判員の方と、ずっと評議だとしんどいな、法廷1日、評議2日とかならまだいいけどという話はしていました。評議をしている間はそれに集中するので、気分を変えられなくてしんどいなという感じで話していました。

それと、お昼休みの時間が長過ぎて昼からの評議がだらけると感じたので、昼の時間を縮めてくれと裁判長に言ったのですが、お昼休みは長いほうが良いと言われた方もいました。

裁判員経験者 3：私の参加した事件の中間評議では、事件の中身を整理するくらいで終わっていました。それと、求刑が、世間での意見よりも少し軽かったので、私の中で、少しほっとした気持ちがあって、評議が非常にやりやすかったです。

裁判員経験者 1：私が参加した事件の評議の仕方は、2番さんのやり方と全く同じでした。

話す順番は、必ず裁判長が指名されていました。初めは、裁判員1番から順番に指名されていたのですが、途中からはランダムに指名されていました。

司会者：意見の内容に応じてですか。

裁判員経験者 1：はい。

私は、最初のころは評議の時間が長くてしんどいなと感じました。ですが、その日の評議のうちに大まかな結論が出ない日があり、そのときは、評議の時間が短いなという感じはしました。評議の後半になると、皆さんそれぞれが自分の意見をまとめていっちゃうので、スムーズにいきました。

司会者：評議は集中して続けられるので、それなりに負担も大きかったのかなと思います。いかがでしょうか。

裁判員経験者 7：最初は長く感じましたが、みんなでいろいろな意見を出し合っていくうちに、最終的には短く感じるようになっていた気がします。苦痛にはならなかったです。

ただ、量刑を決めるときはちょっとしんどかったです。物的証拠が多かったので、量刑を考える上で、これでいいのかどうかという点で、ちょっとしんどい思いをしました。それ以外は、良い評議をさせていただけたかなという気でおります。

司会者：それでは、これから裁判員になられる方に、皆さんからメッセージをい

ただきたいと思います。

裁判員経験者 6：裁判員になられる方の年齢層や職業によって受けとめ方が違うと思うのですが、違う世界を経験すると、自分がやっておられる仕事にもそれを活かせると思います。裁判員になるということは、会社や周りの理解もかなり必要になってくるとは思います。こんなに拘束されるという思いを持たずに、新しいことをいろいろ学べて、いろいろ経験できて、これからの将来のために役立ちますよというようにしていただければと思います。

司会者：環境も大切ですね。どうもありがとうございます。

裁判員経験者 5：サラリーマンの方でしたら、会社の協力が大事だと思います。裁判員になることを辞退されている方は、裁判員になれば拘束されるとか、裁判に関われば危険にさらされるという不安があって辞退されていると思います。しかし、裁判所のほうでケアをされていますし、危険もありません。そういうことが分かれば、辞退される方も多分少なくなると思います。

それと、私も実際に裁判員を経験して初めて分かったんですが、今までに経験したことのないような経験ができ、考え方も変わってきます。何で被告人が罪を犯したかといった被告人の心理もある程度分かってくると思います。

とりあえず、会社の協力が得られなければいけないと思うので、会社が裁判員制度に協力的になればいいと思います。

裁判員経験者 2：私は主婦なので、家のことは自分でしなくてははいけません。ですので、裁判員制度を家族にきちんと理解してもらって、家のことができないときにはパートナーに手伝ってもらえるような環境がすごく大切だと思います。

私が裁判員裁判に参加したという話をお友達にすると、大半から、断ればよかったのにと言われました。なぜかと聞くと、まず面倒くさい、そして時間をとられる、怖い、嫌な写真を見せられるという話をされました。一番ひどかったのは、裁判員って何をするのかと言われました。その制度はまだ続いていたのかという人も中にはいました。ですので、裁判員になったらこういうことをし

ますよということをもう少しくリアに分かりやすく、とっつきやすいように公表していただけたらうれしいなと思います。

私自身は、参加して、自分自身を見直すとてもいい機会になったし、人の話を聞くことですごくためになりました。もしまた長期の裁判員裁判に当たったとしても、私は来たいなと思います。人間としての深みを増すためにも、ぜひ皆さんに参加していただきたいなと思います。

司会者：広報活動が足りないという貴重な御指摘だと思っております。

裁判員経験者 7：裁判員の名簿に登載されたという通知とリーフレットやビデオが届きましたが、結局、私はほとんど見ずに裁判員裁判に参加して、裁判が終わってから見ましたが、事前に送られてきたものをしっかり読めば、誤解を招くようなことはないなと思いました。

せっかく良いリーフレットやDVDがあるので、みんなが見られるようにPRをされると、もっと裁判員裁判に参加される人が増えると思います。

皆さんが言われたように、参加すると自分自身にプラスになりますし、ワンアップできるので、ぜひ参加してほしいと思います。

裁判員経験者 3：裁判員になると、聞きたいこともいざとなれば聞けますし、疑問に思っていることがクリアにできます。ぜひ参加していただきたいなと思います。

裁判員経験者 1：私の周りにも、実際にやりたいという人は幾らでもいます。ですが、やりたくないという人も同じぐらいいます。実際に裁判員になられた人が周りにサポートしてもらえるような環境を、もっと作っていただきたいと思います。

司会者：環境を作るためには、周囲の方の理解が必要で、周囲の方の理解を深めるためには、もっと裁判所が説明をしたほうが良いというお話だと思います。どうもありがとうございました。

それでは、記者の方から何かありますか。

記者：皆さんが直接担当された事件に限らず、裁判全般に関するマスコミの報道

内容やあり方について、問題点があるという御意見があれば、ぜひ伺いたいなと思います。

裁判員経験者 2：判決が終わった後に記者会見があり、いろいろ答えたのですが、その答えの一部を切り取って報道され、自分が言いたかったこととは全然違う話になっていました。

私は、裁判中に裁判の夢を見たことはありましたが、裁判員裁判に参加したことは私にとってはすごく良かったので、また参加したいですという話をしたのですが、夢を見たことだけを取り上げられて、ストレスがあったという記事にされてしまいました。その記事を読んだ人には、ああ、やっぱりそんなにストレスがかかるんだ、夢まで見るようなことになるんだと思われてしまいます。私は、苦勞もしたけどやっぱり良かったよ、だからみんなも参加してくださいねというつもりで話をしているのに、一部だけを取り上げるのはちょっと違うかなと思いました。

何でそこだけを取り上げられたのでしょうか。最後まで報道してくれたら、次に選ばれた方にもきちんと伝わると思いますし、辞退する方が一人でも減れば、多くの人意見や考えが反映される裁判員裁判にすることができると思います。

やっぱり、たくさんの人意見や考えを持ち寄って1つのことに取り組むほうが良いと思います。話した内容を一部だけ切り取って報道されるのは、できたら控えていただきたいなと思います。

裁判員経験者 6：2番さんが言われたように、裁判員制度をもっと国民の方に分かっていたくためにも、報道関係者のほうでそういうこともしっかり書いていただけたら、それを読んでいただいた方の理解も深まるかなと思います。確かにしんどいところはたくさんあると思いますが、それを強調して書いてしまわれると、それを読まれた方はしんどいものだと思込んでしまわれます。

報道関係者の言葉が非常に大事だということは重々御理解されて記事を掲載されているとは思いますが、そこもお含みおきをいただいて書いていただけた

らなと思います。

記者：今回、裁判員の方々が経験された事件というのは、マスコミで大々的に報道されていたため、いろいろなところで見聞きしたことがあったと思うのですが、そのことが裁判に影響を与えたということはありませんか。

裁判員経験者 1：私は、いらない考えを持たず、法廷で得た証言や証拠のみで判断するために、そのような情報を一切見ませんでした。インターネットの記事にしても、週刊誌も、新聞の記事も、終わってから集めました。

裁判員経験者 3：私も、一切シャットアウトしました。

裁判員経験者 2：私が参加した事件の裁判員たちは、インターネットも見ましたし、週刊誌を持ってこられる方もいました。ただ、自分たちが担当している事件の記事に関しては、読まなかったです。ほかの被告人の記事を週刊誌で読んだとしても、それはそれ、これはこれと線引きができていました。

インターネットには、裁判員になる人は主婦かフリーターか年配しかいないと書かれていたので、それっておかしいよねと皆で言いながら、息抜きをしていました。夜中まで働いて翌朝に裁判に出てこられる方がいたり、評議中も商談の電話がかかってきたり、すごく大変なことになっているのに、軽く言われる方もいるので。

記者：裁判員制度をより充実させていくためという趣旨での質問だということを御理解いただきたいのですが、傍聴人や関係者から声をかけられるのではないかと不安に感じたことや、そういうことに対して裁判所にケアしていただいていたことがあればお聞かせください。

裁判員経験者 3：実際には、傍聴人から声を掛けられたことはありませんでした。

初めて裁判に来たときは、何か普通じゃない人が集まってくるのかなという目で周りを見てしまいましたので、見た目だけで、ややこしそうだった傍聴人もいました。その人が、裁判所からの帰りに同じ電車に乗っていて、乗り換えてもまだ同じ電車に乗っているということがあったので、降りる駅を

ずらして細工したことはありましたが，結局は，特に何もなかったです。

裁判員経験者 1：取材をするために，裁判所から出てくる裁判員を記者が待っていたことがありましたが，そのときは，裁判所のほうから，正門に記者がいるので取材を受けたくない方は別の出口から出てくださいとアドバイスを受けました。

ケアに関しても，裁判所からパンフレット等が配られ，ケアのシステムがこのようなになっています，ここへ電話をされたら相談を受け付けますと紹介していただきました。

司会者：長時間お疲れさまでした。本当にありがとうございました。

以 上